

意見書

早稲田大学理工学術院 小峯秀雄

ワーキング開催日時は、学内用務のため欠席します。いただきました資料を読ませていただき、気づいた点、意見を以下に記述します。ご査収くださいませ。

第 I 章 1. の参考資料について

他事例を挙げることにより、理解が進みました。水島における液化プロパンの備蓄やリニア新幹線でも、地下掘削に伴う環境アセスメント事例が最近行われていると思うので、整理しておくが良いと思います。

第 I 章 2. 最終処分法で定められた要件の具体化のうち、「将来にわたって」について

『概要調査地区の選定に当たって「地層の著しい影響」を考慮する将来の期間については、「10 万年程度」とする。』の内訳の記載において、実際には工学的対応を適切に「設計」して、「10 万年程度」を達成するものと、土木工学研究者としては、考える。そういうことが読み取れるような文章表現も考えていただければと存じます。

第 II 章 3. 地熱活動のうち、•基準案の検討

誤解のないように記述してください。ポイントは以下の点です。

緩衝材内の温度制限に関する記述について：

工学的対応を行う立場から、具体的な温度制限値の記載は、この段階で具体的に明記すべきではないと考えます。100℃と記すと、その数値が独り歩きしがちです。

以上